

各 位

上場会社名	株式会社 東研
代表者	代表取締役社長 春山 安成
(コード番号	6738)
問合せ先責任者	取締役 総務部長 大類 隆義
(TEL	03-5325-4321)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年6月19日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年4月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年5月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	2,050	24	△2	△9
今回発表予想(B)	1,954	△29	△62	△71
増減額(B-A)	△96	△53	△60	△62
増減率(%)	△4.7	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年4月期第2四半期)	2,266	△135	△154	△171

### 修正の理由

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な需要縮小に連動した生産調整や個人消費の停滞は在庫調整等の効果により、一部の業種や地域に需要回復の兆しが見え始めましたが、依然として非常に厳しい状況が続いております。このような状況の中で、当社グループは、企業活動が低迷する業界から内需関連業界への営業に切り替え、国内での設備投資意欲が旺盛な食品業界、薬品業界、省エネ産業、環境関連産業等に重点を置き営業を展開してまいりました。

バーコード関連事業においては、医療、食品業界などにおける安全安心の市場要求は高く、トレーサビリティの用途は増えており、このような業界に営業を集中させ効率性を高めるとともに、設備投資に前向きな省エネ産業、環境関連産業に営業先をシフトするなどして新規客先の開拓に努めてまいりました。2次元コードリーダー(イメージャー)の売上高は増加しており、新商品等の導入により今後の売上拡大の傾向が予想できます。一方で、製造業においては、設備投資の抑制により固定式スキャナーの売上高は減少し、引き続き不透明な状況にあります。

X線事業においては、設備投資意欲が旺盛な電池、新素材業界や、重要保安部品の半導体、高密度実装基板等の営業を展開してまいりました。エコカーなどに使用されるリチウムイオン電池の検査装置などは順調に推移しました。また、省エネ業界での引き合いが増えてまいりました。しかしながら、半導体、電子部品、自動車業界では、依然、設備投資を見送る傾向が続いており、その影響を大きく受けることとなりました。

また、その他の事業においても、半導体業界の大幅な投資の抑制による冷え込みの影響を大きく受けることとなりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高を19億54百万円に修正いたします。

利益面では、コストダウンと諸経費の節減に取り組み、人件費をはじめとした経費の削減等費用の圧縮に努めており、収益構造は着実に改善してきております。しかしながら、売上高の落ち込み、粗利率の低下等により、営業損失29百万円、経常損失62百万円、四半期純損失71百万円に修正いたします。

なお、通期業績予想につきましては、現時点において平成21年6月19日に公表した数値に変更はありません。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上